

書籍：「なぜヒトの脳だけが大きくなったのか」を読んで

各学校の授業で「人間らしさの獲得」の理解のために、ヒトの脳の話にもかなりの時間を要している。

それだけに、脳についての知識はある程度はあると思っているし、また、関心があるが、書籍タイトル：「なぜヒトの脳だけが大きくなったのかー人類進化最大の謎に挑むー」が目にとまり、知識欲を駆り立てられ購読した。

著者は、霊長類の研究に携わり、形態進化分野の研究者である。

人間の脳の機能が他の動物と比較し優れていることは自明のことであるが、では、「なぜ、ヒトだけが脳を進化させ得たのか？」という疑問に、「手、二足歩行、声、思考、寿命、社会……」等々の側面に解剖学、動物比較学、等々から触れながら、形態比較という全く新しい視点から挑んだ解説書であった。

著者は、ヒトの進化の原型は「脳＝高度な知能＝道具の使用＝得がたいが高品質・大量の食物の獲得」にあるということ、たくさんの学説、図表、等々を引用しながら、「なるべく平易に」と解説してくれているようであるが、「人類進化最大の謎」への「全く新しい視点から挑んだ解説」だけに、如何せん、我が脳機能は旧態依然のよう(∧o∧)で、追いつけず……。

ただ、ヒトの手指、発声機能、老化、寿命等への形態比較の進化論の視点からの解説は、知らないことが多かっただけに、つくづく「人間も、生物進化過程でのヒトという一種なのだなあ」と大雑把に再認識するには十分であった。

また、「雑学」が我がライフワーク(∧o∧)だけに、如何せん、本論より余談部分について目が止まった。

その一つは、成人男性は「のど仏」が顕著で、火葬した時に「これが、のど仏」と教えられた経験があると思う。

あれは頸椎の上から2番目の骨(軸椎)とか。この骨を後ろ斜めから見ると、座禅・瞑想している仏様のように見え、また、解剖学的に場所が近いことからの誤解とか。

いわゆる生前「のど仏」と云われている喉頭器官は軟骨や筋でできているので、火葬したら形を失ってしまうもの、とか。

まあ、こうした情操的になることも脳の働きの一つだけに、真意はあまり関係ないか…。